

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2011.JUNE vol. 18



CONTENTS

- 2・3 夏の特別展「観音巡礼—中国路の古寺と仏像—」特集
- 4 学芸員通信 5 博物館だより／まいぶんセンター通信
- 6 古代文化センターだより
- 7 山陰歴史回廊「和鋼博物館」 8 れきはくごよみ

特別展

観音巡礼

中国観音霊場会開創30周年記念

中国路の古寺と仏像

題字揮毫：二畑寺管長飯塚大幸

平成23年 7.22 | 金 | - 9.25 | 日 |



特別展 中国観音霊場会開創30周年記念

観音巡礼

中国路の古寺と仏像

中国5県の37ヶ寺が加盟する中国観音霊場会は、今年開創30周年を迎えます。そこで古代出雲歴史博物館を会場に記念の展覧会を開催します。加盟寺院はいずれも各県を代表する寺院ばかりで、国宝・重要文化財など優れた文化財を豊富に所蔵する寺院も数多く含まれます。今回はその数多くの文化財の中から仏像を中心として展示します。

近年仏像ブームと言われています。仏像を中心とした展覧会も様々なところで開催されていますが、今回のように中国地方の仏像をまとめて展示するのは初めての試みです。今年の夏は歴博で中国路の仏像たちと熱く対面してください。

第1章 観音のすがた

観音とは何でしょうか。なぜ人々は観音に救いを求めるのでしょうか。ここでは様々な観音を紹介すると同時に、仏たちのなかでの観音の役割について説明します。

□主な展示品

重要文化財	銅造観音菩薩立像	2 軀	鳥取県	大山寺
重要文化財	銅造観音菩薩立像	2 軀	島根県	鱈淵寺
重要文化財	木造観音菩薩坐像	1 軀	島根県	清水寺
重要文化財	木造十一面観音立像	1 軀	鳥取県	三佛寺
重要文化財	木造聖観音菩薩立像	1 軀	岡山県	餘慶寺
岡山県重文	木造十一面観音立像	1 軀	岡山県	餘慶寺



木造薬師如来坐像 餘慶寺
(写真提供・岡山県立博物館)



木造蔵王権現立像 三佛寺
(写真提供・鳥取県立博物館)

第2章 観音霊場に伝わる仏たち

中国観音霊場会の全面的な協力により、各寺院の仏像や仏画を中心とした寺宝を紹介します。重要文化財と各県の指定文化財を中心に貴重な文化財が数多く並びます。

□主な展示品

重要文化財	木造薬師如来坐像	1 軀	岡山県	餘慶寺
重要文化財	木造蔵王権現立像	1 軀	鳥取県	三佛寺
重要文化財	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	島根県	清水寺
重要文化財	木造勢至菩薩坐像	1 軀	島根県	清水寺
重要文化財	木造釈迦如来立像	1 軀	広島県	西國寺
重要文化財	木造聖徳太子孝養像	1 軀	広島県	浄土寺
重要文化財	木造大日如来坐像	1 軀	山口県	龍蔵寺
重要文化財	四天王図鎗金絵屏	2 面	山口県	龍蔵寺
山口県重文	絹本著色涅槃図	1 幅	山口県	洞春寺



木造大日如来坐像 龍蔵寺
(写真提供・山口市教育委員会)



木造釈迦如来立像 西國寺
(撮影・村上宏治氏)

第3章 中国観音霊場会の紹介

平成23年に開創30周年を迎える中国観音霊場会の寺院を地図と写真で紹介いたします。これから巡礼に出かけてみようという方々への情報も満載です。

また、中国観音霊場会が友好姉妹縁組を結んでいる中国の観音霊場普陀山の紹介もします。

※都合により展示を取り止める場合があります。会期中展示替えがあります。詳しくは古代出雲歴史博物館のホームページをご覧ください。

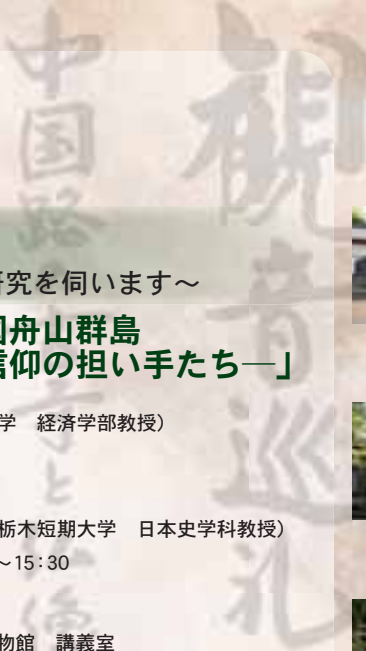


木造聖徳太子孝養像 浄土寺
(撮影・村上宏治氏)



銅造観音菩薩立像 鱈淵寺

関連行事



西大寺(岡山県)



正楽寺(岡山県)



木山寺(岡山県)



蓮台寺(岡山県)



明王院(広島県)



西國寺(広島県)



向上寺(広島県)



三瀧寺(広島県)



般若寺(山口県)



洞春寺(山口県)



餘慶寺(岡山県)



誕生寺(岡山県)



法界院(岡山県)



円通寺(岡山県)



浄土寺(広島県)



千光寺(広島県)



佛通寺(広島県)



大聖院(広島県)



漢陽寺(山口県)

特別講演会

～研究者から最新の研究を伺います～

「古代の海商と中国舟山群島 —観音信仰の担い手たち—」

7月31日(日)

田中史生氏(関東学院大学 経済学部教授)

「慈覚大師円仁」

9月10日(土)

酒寄雅志氏(國學院大学栃木短期大学 日本史学科教授)

- 時間: 各回とも13:30～15:30
- 参加費: 無料
- 定員: 100名
- 場所: 古代出雲歴史博物館 講義室
- 申込み: 電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。
定員となり次第、締切とさせていただきます。

オープニングコンサート

～仏教の儀式音楽である声明を聞きます～

「声明公演」岡山天台声明研究会

- 日時: 7月22日(金) 11:00～/14:00～(各回30分間)
- 参加費: 無料
- 定員: 100名先着順
- 場所: 古代出雲歴史博物館 講義室

仏像講座

～仏像がどんどん分かるようになります～

「そうだったのか! 仏像 初級編」

8月7日(日)

「そうだったのか! 仏像 中級編」

8月21日(日)

- 時間: 各回とも13:30～15:00
- 参加費: 無料
- 定員: 100名
- 場所: 古代出雲歴史博物館 講義室
- 申込み: 電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。
定員となり次第、締切とさせていただきます。

辻説法

～中国観音霊場会の住職がお話しをします～

- ① 7月23日(土) 茶円宥勝(多陀寺住職)
- ② 7月30日(土) 佐藤泰雄(鰐淵寺住職)
- ③ 8月20日(土) 小林周伸(餘慶寺前任職)
- ④ 8月27日(土) 飯塚大幸(一畑寺住職)
- ⑤ 9月3日(土) 清水谷善圭(清水寺貫主)
- ⑥ 9月24日(土) 米田良範(三佛寺副住職)

- 参加費: 入館券が必要
- 定員: 各回20名
- 時間: 各回11:00～、12:00～、14:00～(15分程度)
- 場所: 古代出雲歴史博物館 特別展示室
- 申込み: 不要 先着順
- お断り: 講師が変更になる場合があります。



龍蔵寺(山口県)



宗隣寺(山口県)



功山寺(山口県)



大照院(山口県)



観音院(山口県)



多陀寺(島根県)



神門寺(島根県)



禅定寺(島根県)



鰐淵寺(島根県)



一畑寺(島根県)



雲樹寺(島根県)



清水寺(島根県)



大山寺(鳥取県)



長谷寺(鳥取県)



三佛寺(鳥取県)



摩尼寺(鳥取県)



観音院(鳥取県)



大雲院(鳥取県)

【撮影】
村上宏治氏
麻生祥代氏

クロスロード交響楽

—新たな企画展への挑戦—

専門学芸員 森田 喜久男



それは本当に、ヒョウタンから出たコマそのものでした。企画展「古代出雲の壮大なる交流」のオープニングまで、三ヶ月を切ったある冬の日、目を血走らせてパソコンに向かっていた私の背後に支配人が立って、「森田さん、企画展のテーマ曲を作りませんか?!」連日の徹夜続きでハイになっていた私は「いいですね。やりましょう」と勢いで答え、その後、大社在住の歌島さんに会い、企画展そのものの説明をしたのです。

当初、歌島氏の反応はイマイチで、「ああ、脈がない」と思っていました。しかし、企画展の目玉である「相撲生人形 野見宿禰と当麻蹶速」の写真を見せた瞬間、彼の目が輝き出したのです。「古代出雲はいつも輝いていた、力強いイメージの曲を作ってください!」「わかりました。あなた、熱い学芸員ですね」こうして出来上がったのが企画展のテーマ曲「CROSS ROAD」です。試聴の段階で上司や同僚の共感を得て気を良くした私は、これを展示室で流そうと思いました。すると展示デザイナーがイメージ映像を作ってBGMで流そうと言い出し、こうして「日本海を中心 出雲」という映像が出来上がったのです。

企画展の展示室には、巨大なスクリーンが配置され、映像が流れBGMとして「CROSS ROAD」が聞こえ、展示品として船形埴輪・玉・人骨・白鳥・相撲生人形が並ぶという凄い空間が出来上がりました。展示品が今にも動き出しそうです。まさに「驚異の部屋」。一見すると収拾がつかない展示ですが、全体として古代出雲はそれ自体パワースポットだったということを感じさせる部屋となりました。

これまでの企画展は、研究成果をもとに展示ストーリーを組み立てて、それに沿って作品を並べ解説していくといったやり方でしたが、今回はお客様に理解してもらうことよりも、まず何かを感じ取ってもらいたいという思いで作品を並べた次第です。五感を総動員して、古代出雲を感じてもらおう。そのために音楽や映像に力を入れたのです。お客様が何かを感じていただければ、後はご自身でお調べになる。それでいいと思います。博物館の展示は押しつけであってはならない、学びのきっかけを作る場であるべきなのです。

では、森田は研究は必要ないと考えているのかって。そんな事はありません。研究は必要です。でもそれをあんまり前面に出すと、押しつけになってしまうのです。研究成果は、言わば料理における隠し味のようなもの。同業者の反発を覚悟で、あえて言えば、展示の隠し味になり得るだけの価値のあるものでなければ、博物館での研究には値しない。随分、生意気な言い方ですが、学界の中でしか通用しない議論をやっている異業種とのコラボは出来ませんし、何よりもお客様の共感を得ることはできません。これからも来館者の感性に訴える展示を求め続けたいと思います。



風と 波のうたごえに
はるか 遠い 大地と 大空
ひろがる 山に こだまする
はるか 遠い 人の 呼び声

太陽と ともに 在りて
栄えし 永久(とわ)に 続く 旅路
立ちのぼる 雲を 背に

今も むかしも 変わらない
まことの つよさと 祈る声
今も むかしも 変わらない
まことの つよさと むすぶ愛

CROSSROAD

作曲 歌島昌智
作詞 歌島智美



[アテンダントからのお知らせ]

● ミュージアムパスポート (年間観覧券) のご案内 ●

古代出雲歴史博物館では、会員ご本人に限り、1年間（発行日の翌年同月末日まで有効）何度でもご観覧いただけるミュージアムパスポート（年間観覧券）を販売しております。ミュージアムパスポートには、パスポート会員とパスポート・ブロンズ会員がございます。ご覧の「歴博ニュース」が毎回送付されるなどの特典付のブロンズ会員がオススメです。

ミュージアムパスポートのご購入、更新を希望される場合は、当館総合受付カウンターでのお申込みが必要となります。

申込用紙は、古代出雲歴史博物館内総合受付カウンターでお受け取りいただけます。





「撮れる博物館」へ向けての始動

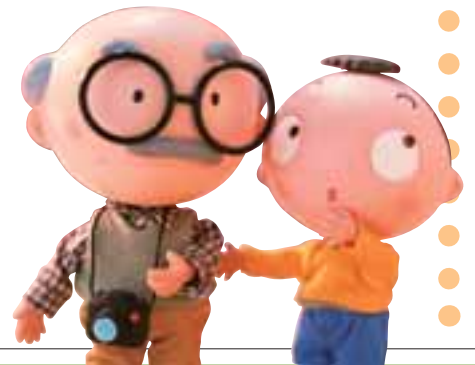
主任学芸員 久保田 一郎

「博物館」＝文化財を厳重に保管理し、守っている施設というイメージは、「生涯学習」の考え方が広まるにつれて変わってきました。文化財の保管から、学びの場へと役割が広がるにつれて、来館者がよりいっそう楽しく学べるようにと、公立の博物館が徐々に常設展示室での写真撮影を認める方向へ向かっているようです。東京国立博物館など、日本の代表的な博物館でもかなり自由に写真が撮れるようになりました。

当館は開館以来、展示室内を基本的に撮影禁止にしています。「なぜ撮影が禁止されているのか」という手紙をいただくこともあります。昨春開催した「BATADEN」展は、展示品の所有者のみな様のご厚意で「全面撮影OK」が実現し、好評をいただきました。同じ春、出雲市に開館した「出雲弥生の森博物館」も、体験コーナーや自館の所蔵品は撮影可能になっています。当館でも、常設展示室では撮影してよいものもあるのではないかと、という思いを強くしました。

当館で常設展示している資料の多くが、神社やお寺、団体、個人の所有者からの寄託品や各地の教育委員会から借用した文化財ですが、現在展示中の資料の写真撮影について、一部を除き所有者からご快諾いただきました。ただ、所有者の方々が不安を感じる要素があれば「撮影OK」をやめなければなりません。来館者の皆様が、「文化財を後世に守り伝える」という精神を当館と共有していただけるかどうかのカギとなります。当館も、若干緊張しながらの始動です。

6月中には、常設展示室での撮影が可能なる状態にもっていきたいと考えております。来館者の皆様のご協力をいただきながら、今後も開かれた博物館にしていきたいと思ひます。



いにしえ倶楽部 連続講座

『カワハラ所長が語る古代の島根』開始!

島根県埋蔵文化財調査センターでは、皆さんにより埋蔵文化財に親んでもらおうと、今年度から月1回で古代島根に関する連続講座を企画しました。当センター所長である川原をはじめ、長年にわたって県内の遺跡を調査・研究したベテラン考古学者（ドクター内田・ニワノ課長）が古代島根の様々な謎解きにチャレンジします。

第1回講座は5月29日に開催し、弥生時代の日本と朝鮮半島との交流に出雲の漆製品が重要な鍵を握っていたと、川原所長が自説を熱く語り、参加した聴衆も熱心に聞き入っていました。当日は出雲市中野清水遺跡から出土した漆入り土器や姫原西遺跡の漆塗りの木製品等の貴重な遺物を数多く展示し、これも熱い視線を浴びていました。

講座は毎月第3日曜日の13:30から15:00まで、松江市打出町の島根県埋蔵文化財調査センター研修室で行います。最寄りの講座に関する詳しい情報は、TEL0852-36-8608（管理グループ：池淵）までお問い合わせ下さい。

当センターならではの、実際の遺物を見て触れて学べる親しみやすい講座を目指しています。皆様のご参加を是非お待ちしております!



カワハラ所長



ニワノ課長



ドクター内田

鉄 倭国一博士が見たたたら製鉄

古代文化センター専門研究員 角田 徳幸

幕末・明治期における変動は、我が国の社会や産業構造に大きな変化をもたらしました。中国地方のたたら製鉄もその例外ではなく、次第に斜陽産業になっていきました。こうした中、島根県浜田市出身で、帝国大学工科大学(現東京大学工学部)で冶金学を修めた倭国一博士は、たたら製鉄の技術がやがては全く失われてしまうことを憂慮して、1898(明治31)年に中国地方の砂鉄製錬業を調査しました。倭博士の調査は、備後北部(広島県)から伯耆西部(鳥取県)、奥出雲・石見(島根県)の順に7月19日から9月15日まで延べ2ヶ月に及んでいます。

鳥取県では、日野町の都合山^{つごうやまたたら}鉦で高殿(製鉄場)と大鍛冶場、日南町の砥波^{おおかじば}鉦で鋳押(鋼生産中心の操業法)の調査が行われました。都合山鉦の高殿は、平面形が隅丸方形をした丸^と打^なで、安来市和鋼博物館の模型はこれをモデルにしたものです。島根県では、まず奥出雲町の櫻井家が経営した内谷鍛冶屋や糸原家などで調査を行い、8月31日には郷里である浜田市に到着しています。その後、邑智郡の調査を経て、江津市の^{あたいだにたたら}備谷^{まるとち}鉦^{ずくおし}で高殿と鋳押(鉄生産中心の操業法)を記録しました。備谷鉦は、2002~04(平成14~16)年に島根県古代文化センターが測量と発掘を行い、倭博士の記録と合わせて、製鉄炉の防湿施設である地下施設を含めた高殿全体の構造を復原することができました。調査成果は、古代出雲歴史博物館総合展示室たたらコーナーのビデオで紹介しています。

倭博士は、1933(昭和8)年に、この調査の成果を『古来の砂鉄製錬法』として刊行しており、たたら製鉄の実態を知る上で重要な著作として、現在でも高い評価を受けています。また、博士が調査で収集した資料は、長年の研究で蓄積された数多くの製鉄関係資料とともに1953(昭和28)年に和鋼記念館(当時)に移され、現在では和鋼博物館が所蔵しています。たたら製鉄の施設や技術は、既に失われてしまったものも多くあり、今日では不明な点も少なくありません。倭博士が残した記録や資料は、たたら製鉄の具体的な姿を私達に語ってくれます。



倭国一博士

1872(明治5)年、島根県浜田市生まれ。東京帝国大学教授として、我が国における鉄鋼研究の基礎を築き、たたら製鉄や日本刀の研究を行った。1946(昭和21)年には、文化勲章が贈られている。



奥出雲町内谷鍛冶屋の左下鉄(安来市和鋼博物館所蔵)

左は採取資料で、切断面は倭博士が分析調査を行った部分。右は資料ラベルで、工科大学の用紙が使われており、英文で「Sagegane (Middle Product) Uchidani Kajiya Nitagou Idzumo」と記される。

企画展

たたら製鉄と近代の幕開け

平成 23 年 10/7(金)・12/18(日) (会期中の休館日: 10/18(火)・11/15(火))

「さんいんさんぽ」

「和鋼の世界へご案内」 ～和鋼博物館 / 島根県安来市～

【中国山地の「たたら」】

中国山地は良質の砂鉄と豊かな森林資源に恵まれ、古くから「たたら製鉄」が盛んな地帯でした。江戸時代後半から明治時代前半には国内総生産量の約8割を占めたとされています。

館名の「和鋼」は「たたら」で生産される日本（和）独特の鋼という意味を持っています。

質・量共に優れたこれらの素材は、産業の母として我が国の各分野に大きく貢献してきました。

和鋼博物館は、昭和21年に設立された旧和鋼記念館の業績を受け継ぎ、平成5年春に日本の伝統的製鉄法である「たたら」に関する総合博物館として開館しました。



和鋼博物館 外観



たたらのはと天秤輪



たたらのは作業建屋「高殿」模型

伝統的な技術に改良がなされ、優れた鋼の生産地として生まれ変わり、世界的にも著名な「ヤスキハガネ」生産の町となりました。

安来は今も昔も優れた鋼の供給地として重要な役割を果たしています。

館内は国の重要有形民俗文化財に指定されている「たたらによる和鋼生産用具」や映像、体験コーナーなどをとおして、生産技術や流通、そして日本刀を紹介するとともに、特別展や講演会、さらに様々な行事を開催しています。

また和鋼博物館は、島根県東部に伝わる有形無形のたたら文化を保存・公開し、未来への新しい可能性の創造を目指す「鉄の道文化圏」の中核施設としての役割も担うとともに、たたらゆかりの各地域・各施設への案内館という性格も備えています。

【安来の街 今と昔】

江戸から明治にかけて、安来は島根東部から鳥取西部の山間地の「たたら」で生産される鋼の積み出し港として繁栄した歴史を持っています。ここから全国の刃物や金物の産地へ多くの鋼が出荷され、各地域の産業の発展を支えました。

しかし明治時代半ばになると、近代製鉄法の普及によって「たたら」は衰退期を迎えますが、ここ安来は良質の原料と伝



古代たたら製鉄の復元操業

和鋼博物館

〒692-0011 島根県安来市安来町1058番地

TEL:0854-23-2500 FAX:0854-23-0880

開館時間●午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日●水曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)

入館料●一般300円/高校生200円(※中学生以下無料)
特別展等の入館料は別に定めます

駐車場●大型車2・普通車80台

交通●〔鉄道〕JR安来駅より徒歩15分
〔自動車〕山陰道安来ICより10分、米子空港より50分、
出雲空港より80分



【替わり番子】を体験!「天秤輪」

企画展 スケジュール 2011-2012

2011年10月7日(金)～12月18日(日)

企画展

たたら製鉄と近代の幕開け

2011年12月28日(水)～2012年2月26日(日)

特集展

備前焼展 —土と炎の芸術—

2012年3月16日(金)～5月16日(水)

企画展

青銅器に魅せられた人々 (仮)

夏のイベントスケジュール

※内容等変更の可能性あります。

7月2日(土) ～8月28日(日)	ぎ・ん・ぶら	石見銀山世界遺産登録記念 3館連携企画スタンプラリー (石見銀山世界遺産センター・三瓶自然館サヒメル・古代出雲歴史博物館)
7月7日(木) ～7月16日(土)	七夕まつり	ささかざり コンサートなど
7月12日(火)	銅剣発見記念日	斐川・荒神谷遺跡
7月23日(土) ～8月31日(水)	夏休みクイズラリー	歴博内のクイズラリー
7月24日(日)	夏休み体験楽まつり	バックヤードツアー 藍染など (しまね家庭の日)
8月5日(金) ～21日(日)	出雲大社大屋根特別拝観	出雲大社御本殿大屋根の特別拝観
8月21日(日)	れきはく夏まつり	サマーコンサート ワークショップ アテンダント園遊会 (しまね家庭の日)
9月12日(月)	観月会	ミニコンサート お茶・お団子のおもてなし
9月15日(木) ～21日(水)	敬老週間	65歳以上入場無料
9月17日(土) ～19日(月)	御茶席の設営	アテンダント園遊会 (18日しまね家庭の日)



120万人目となったのは、大阪からお越しのご夫婦。

感謝 ◆ 歴博来館者120万人達成

平成23年4月8日(金)

東日本大震災の影響もあり日本中が沈痛な雰囲気の中、こんな時だからこそ人の絆(Parson & Parson's Bonds)を再認識するとともに、平成19年3月10日の開館以来、120万人もの多数の皆様にご来館いただいた出雲の“ご縁”に感謝したいと思います。



2万人目となったのは、スイスから来日されたエンゲルさん。

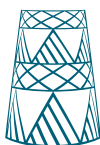
ようこそ ◆ 企画展「壮大なる交流」来場者2万人達成

平成23年5月13日(金)

東日本大震災の影響によりGW前までは2万人達成は無理ではないかと思われましたが、担当学芸員の「企画展に来て皆様元気を出していただきたい」という強い思いが通じて、2万人目の来場者を迎えることが出来ました。

しかもスイスからお越しいただいたということで、出雲の“ご縁”が世界に広がりを見せ始めた証拠ではないでしょうか。

発行/平成23年6月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん